

2020年度学校評価 改善の方策(2021年度に向けて)

評価の観点	評価項目	達成状況	本年度の取り組みと改善の方策	学校関係者評価 コメント
① 基礎基本	わかる喜びのある授業づくり	A	昨年度からの「書く・伝え合う」取組からさらに質を高めることを目指し、本年度は「読み取る力・伝え深める力」の2つを取組の柱として研究を進めた。「読み取る力」については、新しく「読解力トレーニング」に取り組み、授業との両輪で進めることで学びに一貫性があり積み上げができた。初見の文を読むトレーニングをすることで大まかな内容を掴むことはもちろん、継続することで文章中のキーワードを見つけることもできるようになってきた。学力テストの結果からも、課題はあるものの、文章を読み取る力は着実に伸びてきている。また、コロナ禍においてペア学習やグループ学習に制限はあったが、ノートの交換やタブレットの利用など、様々な方法を用いて自分の考えを伝え、交流することができた。来年度も、身に付けさせたい力を明確にすることで、その手立てを研究・研修し、「喜びのある授業づくり」へつなげる。	「読解力トレーニング」は、初見の文章を読む力を身につけさせるために効果的であると思う。多忙な中ではあるが、時間の確保をして欲しい。
	個に応じたきめ細かな指導		高学年では、兵庫型教科担任制により学級を分け、少人数での指導を行うことで理解の向上に努めている。中学年では学習支援員が支援の必要な児童を中心に関わり、学力の底上げを図ることができている。低学年では、「がんばりタイム」による反復練習による計算の基礎の定着、スクールアシスタントによる学習支援により学力保障ができている。今後も、個に応じた指導の充実を図りたい。	業務改善の一環として、日課表の見直しが行われており、モジュールによる音読については、今年度は実施されていない。効果的な取組であり、できる範囲で取組を続けられるとよい。
	家庭学習への取り組み		家庭学習チェック表を活用し、年間4回、家庭学習の強化週間として取り組んだ。宿題は概ねできているが、家庭での関わりに個人差があったり、土日の学習時間の確保が難しかったりと課題もある。チェック表の項目は、学習アンケートとリンクしているので、課題のある項目は、より具体的な手立てが必要である。(特に見直しの習慣化・自主学習・読書)家庭と協力して、根気強く家庭学習の習慣化に向けて全職員が足並みをそろえて取り組んでいきたい。	家庭学習強化週間は、定着していつているように感じる。家庭で十分に見てもらえない子どももあるだろうから、休み時間等を活用して、児童に過度の負担にならない範囲でフォローをしてやってほしい。
	朝の学習への取組		今年度より朝の10分間を学習タイムとして、隔週で①学力保障としての補充学習②読解力トレーニングに取り組んだ。①では新出漢字の習得や算数の反復練習などをした。足りないところが補え、学習の定着にもつながった。②は研究テーマの柱である「読み取る力」をつけるために今年度より試みた取組である。実践に向け講師を招聘し研修を行った。初見の文を自力で読み取る力をつけるのはもちろん、取組の際にゲーム性を取り入れることで、児童の学習への意欲付けにもつながっている。始めたばかりで成果は見えにくいだが、初見の文章をすらすら読める児童が増え、それに伴って大まかな内容を捉えられるようになってきている。来年度、日課表の見直しで朝の時間の確保が難しいが、読解力トレーニングについては引き続き取組を続け、読み取る力を着実につけていく。	
② 道徳教育 人権教育	規範意識や道徳的判断力を高める授業	A	教師として人権意識を高く持ち、教育活動に当たっていくためにも、言葉遣いには注意したい。特に、児童のことは君、さん付けで呼ぶこと、基本は標準語で話すことなどに気を付け、品格を保ちたい。	「心あたたまる話」の取組は評価できる。今年度から、実施日を変更し、命と人権について、様々な先生のお話をじっくりと聴けるようになったことはよいことだ。
	自己を高め、友だちを思いやる心や態度の育成		児童・保護者のアンケートでも数値が前期よりさらに高くなっており、友達を大切にすることができていることがわかる。人権を意識した取り組みとしては、昨年度から始まった朝会時の「心温まるお話」がある。今後も継続していけたらよいと思う。にこにこ集会の作品作りを通して身近な人権課題について自分なりに考えることができているので、今後も継続していきたい。	道徳・人権は、授業だけでなく、学校生活全体を通して指導していくことが大切だ。
	道徳の教科としての評価		前期よりも取組が進み、どの教師も評価を意識した授業ができており、学期ごとの評価も根拠を明らかにして書くことができていると思われる。道徳ノートの活用については、教材に応じてワークシートを用いることもあるが、ファイルにまとめて次年度に引き継ぐ。初めて評価についての職員研修ができたことが良かった。	
③ 特活 学校行事	いじめを許さない学級作り	A	今月のめあてに対して、各学級ごとに振り返り活動を行うことができた。また、児童代表委員会の取組として、児童会役員と各クラス代表が話し合い、その結果を各クラスに持ち帰るという活動が確立できている。いじめを許さない学級作りについての取組として、学校生活相談シートによる実態の把握及びその対応による部分が大きい。シートの情報を基に担任の聞き取り等初動対応を迅速に進め、いじめ防止対策委員会や職員会への報告、改善策を検討することで、問題解決を図っていきたい。	「いじめ対策委員会」や「個別カルテ」の取組等、しっかりと組織的にいじめ対応をされていることがよくわかる。個人情報管理はしっかりと行う必要がある。
	児童の主体性を重視した活動の充実		コロナ禍で、例年行っていたリーダー研修やなかよし遊び等、実施できなかった取組が多くあった。しかし、あいさつ運動の実施、6年生を中心とした運動会の応援合戦の計画・練習など例年通りの活動だけでなく、児童会を中心にした「楓っ子八つの約束」と「冬休みのくらし」動画の作成や、ハロウィンパーティーの計画・実施を通して、児童が自分の役割を考えて主体的に取り組む機会を充実させることができた。	コロナ禍の中であつたが、制限のある中でも、子どもが主体的になって様々な取組がなされたことは意義がある。
④ 特別支援 教育	特別支援教育に係る研修の充実と共通理解	B	例年であれば北はりま特別支援学校より講師を招聘し、特別支援学級の授業研究の通して児童の実態や個に応じた合理的配慮についての共通理解を図るのだが本年度はコロナの状況を考慮し、各学級の課題のある児童やサポートファイルをもつ児童、個別の指導計画を作成している児童について北はりま特別支援学校の講師と担任との面談とした。担任としては助言をいただくことで指導に生かすことができたが、職員全体で共通理解を図る場がもてなかった。来年度は、課題のある児童の特性や関わり方などを共通理解できる場を設け、またスクールカウンセラーを講師に迎え、個に応じた手立てとよりよい支援の方法を研修したいと考えている。	様々な支援を要する児童が増えており、より専門的な指導力が求められるようになってきている。適切な支援ができるよう研修は不可欠である。

	一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援		サポートファイルをもっている児童や各学級で課題のある児童については北はりま特別支援学校の講師に児童観察を依頼し、効果的な支援方法やサポートファイル作成の指導助言を受けた。そのことを元に各担任は個に応じた支援を行っている。また、課題をもつ児童に関しては職員朝会や職員会議で情報交換することで児童に関する情報を共有し、多くの職員が支援に関わる体制をとっている。必要に応じて専門機関やスクールカウンセラーにつなぎ、教育的ニーズに合わせた支援をすることができるようにしている。今後も個に応じた支援ができるようサポートファイルや支援計画・指導計画の見直しながら支援を続けていきたいと考える。	支援を要する児童の指導にあたっては、関係機関と連携して、指導計画を立てる等、支援体制を整えて欲しい。
⑤ 安全・防災 健康・食育	生命を守る安全教育の推進	B	毎月の登校指導と下校指導を実施した。いろいろな課題が各班で見られるが、その都度担当教師や関係の担任教師による迅速な指導を通して安全な登下校を意識させることができた。また、交通班が下校の際に入り乱れて危ない状況になったことに対しては、さよならの後、地区担当教員が交通班の間隔を十分にあけてから出発させることで改善された。来年度以降も継続して実施していきたい。 交通安全教室では、コロナ禍での実施であったので交通安全DVD鑑賞を学年別に行い実施した。実技の訓練はなかったが、警察の方が分かりやすく説明をしてくださったおかげで、自転車の安全な乗り方を学ぶことができた。今後も、実技訓練をしない際には活用したい。	集団下校の態度は、良くなっていると思う。児童の数が年々減少傾向にあり、遠方に帰る児童が心配である。下校時に、今から児童が帰ることをお知らせする放送等を入れることはできないだろうか。それに合わせて、犬の散歩や畑仕事をしてもらえるとよい。登下校の見守りは、できるだけ多くの地域の人の目で見守るの方がよい。
	実践的な態度や能力を育てる防災教育の推進		年3回の避難訓練と1月の防災学習(キッズ防災検定を含む)を通して、実践的な態度や能力、知識を身につけることを目標にしたが、コロナウィルス拡大防止を優先させたため年間で1回の実施にとどまってしまった。来年度は計画に沿って最低でも3回の実施をしていかなければならない。また、新入生を迎えたなるべく早い時期に実施したい。そして、学校の構造上、不審者が進入してきた際の対応が非常に難しいので、安全を確保できるように訓練を計画・実施をしていきたい。	
	健康に関心を持ち、体力向上に取り組む児童の育成		規則正しい生活習慣を身につけさせることを目的とし、学期に1回「元氣もりもり大作戦」に取り組んだ。テレビやゲーム、ユーチューブの視聴時間についてもチェックしたが、学年が上がるにつれてメディア利用時間が長く、就寝時刻も遅くなる傾向が見られた。基本的な生活習慣を身につけるためには、家庭との連携が必至であるため、今後も継続して取り組みたい。また、コロナウィルス感染拡大防止のため、地域の専門家を講師とした保健指導が一部実施できなかったため、感染防止に努めながら来年度は実施していきたい。	コロナによる臨時休業の影響もあり、インターネットや動画視聴、ゲームをする時間が増えているように聞く。GIGAスクール構想に基づくタブレットの家庭への持ち帰りも今後進められていく。本来家庭の問題ではあるが、家庭と連携して、メディアとの正しい付き合い方についての指導を進めて欲しい。
	望ましい食習慣の育成		食育全体計画、食育年間指導計画を立てが、今年度は4月・5月の休校や感染防止のため、給食時間における食育指導や地域の人材を活用した食育指導を実施することができなかった。来年度は感染防止に配慮し、計画的に実施していきたい。また、毎日朝食を食べる児童の割合は90%以上であるが、時間がない、食欲がない、朝食の準備がない等の理由で時々欠食する児童もいる。全児童が毎日朝食を食べることをめあてに、元氣もりもり大作戦を実施するとともに、保健だより等でも保護者に啓発していきたい。給食では、食事のマナーや好き嫌いせずに食べることを、各クラス複数の教師で指導している。家庭とも連携しながら、来年度も継続していく。	
⑥ 生徒指導	挨拶、掃除等の基本的な生活習慣の確立	A	1学期から児童相互の投票や教師による推薦で、現在8人の児童が「あいさつ名人」として認定されたことにより、自分から進んで挨拶する児童が増えてきた。また、6年生による「あいさつ運動」が展開されたことで、その取組がさらに活発化した。掃除については、現在「黙々掃除」が少しずつ定着しているので、引き続き取組を進めていきたい。チャイム着席が定着しつつあり、チャイムと同時に授業が始められるようになった。安全タスキについては、学級指導をしたり下校時に確認をしたりして着用の徹底を図っている。現在できている基本的な生活習慣については、来年度も継続して取り組んでいく。	あいさつ運動の取組は、効果的であったように思う。6年生の児童が主体的にリードしたことがよかったのではないかな。生活の見直しの動画作成も良いアイデアであった。自分たちの生活を自分たちで改善していけるよう、継続して指導いただきたい。
	子どもと向き合い、子ども理解を深める生徒指導の徹底		担任による児童観察や毎月の学校生活相談シートで実態を把握するなど、担任が中心となって聞き取りや指導を行うことで問題を解決することができた。また、必要に応じて複数教員による対応も行っている。6年生による寸劇「夏休みや冬休みのくらし方」を見ることで、全校児童は基本的なルールを学ぶことができた。児童代表委員会においては、各月の生活のめあてを児童たちで考えて、そのふりかえりを行っている。その際には、ふりかえりシートを活用している。各学級での振り返り→代表委員会での発表→代表委員会で話し合い→話し合った内容を各学級へというサイクルを確立することで生活のめあてが意義あるものになっている。	
	不登校ゼロ、いじめゼロの実現		普段の児童観察に加え、学校生活相談シート(児童は毎月、保護者は学期に1回)で情報収集に努めてきた。寄せられた情報は、いじめ防止対策委員会及び生活指導委員会、職員会議等において共通理解を図ることができた。不登校の傾向やいじめにつながる行動があった時は、随時、対策委員会を開いて対応を協議を行った。また、問題によっては複数教員で解決に当たり、即日対応を心がけてきた。一方、不登校傾向の児童には、児童支援教員・養護教諭と連携して対応してきた。しかし、行き渋りも含め登校に困り感を抱く児童がある場合、家庭との連携を図りながら学校生活における居場所作りをすすめ、不登校ゼロをめざし取り組む。	いじめ対策委員会と生活指導委員会を別日に設定し、その役割を明確化したことは、良かったと思う。
⑦ 教職員の 資質向上	教育の専門家としての資質・指導の向上を図る校内研修の充実	A	本年度も国語の研究授業の事後研修会で、グループ討議の後に全体討議の時間を設定した。話し合いの中で出てきた本校の課題について、意見交流をすることができた。また、年間を通じて同じ講師を招聘したことで研修に一貫性があり、積み上げができた。コロナ禍により、思うように研修を進められないところもあったが、GIGAスクール構想がスタートしたことを受け、タブレット(クロームブック)の研修にも取り組んだ。来年度もさらに研究を深め、個々の授業力を上げていく必要がある、研修の振り返りから本校の課題を共通理解し、研究分野を統一して取り組むとともに、GIGAスクール構想の具現化に向けた職員のスキルアップを図る取組も行っていきたい。また、全国学力・学習状況調査等の結果の分析を生かし、さらに本校児童の実態にあった指導ができるようにする。	外部から講師を招聘し、取組を客観的に評価してもらうことは良いことだ。 GIGAスクールの取組が進み、タブレットが導入された。教職員の研修が不可欠である。

	教師としての使命感や子どもに対する愛情、責任感		児童をより深く理解するために、職員会議で児童の様子を全職員が共有した。心と体の健康アンケートを実施し、ストレスが高い児童については、SCの指導の下、個別対応を行い保護者からの要望があればカウンセリングにつないだ。また、授業中には必ず教師も児童もさん付けで名前を呼んだり、個々の話をしっかりと聞いたりする時間を確保すること、また、児童への温かい励ましができるよう心がけている。	多忙な中ではあるが、是非、研修を積んで教師がまず、使いこなせるようになっていく必要がある。
⑧ 組織運営	教育目標達成に向けた、それぞれの校務分掌における意欲的な取組	B	各担当で責任を持ち、それぞれの校務の遂行に主体的かつ自律的に努めている。また、各種委員会は、日程調整に苦心しながらも定期的に実施できている。複数の委員会に所属する職員も多く、職員会議以外の各種委員会も、タイムマネジメントを意識し会議を効率的に進めていきたい。今年度は生活指導委員会といじめ防止対策委員会を別日に設け、それぞれの役割を明確にし、組織の活性化を図った。今後、次年度の担当者に確実に引き継ぐ文書フォルダーの文書等を整理・保存する必要がある。次年度は、コロナ対策とよりきめ細やかな学習支援のため、新6年生を2学級に編成する予定である。	コロナ禍の中、大変な一年であったと思う。また、新学習指導要領に基づくプログラミング学習や英語の教科化等、新しい学習内容が導入された。それに加えてGIGAスクール構想に基づく、タブレットの導入など目まぐるしい一年でもあった。業務改善については、人員配置や教育課程等、抜本的な改革については文部科学省や県教育委員会に委ねることになるが、学校内でも課題を洗い出し、一つずつ地道な業務改善を進めてほしい。
	学校の経営方針の浸透、報告・連絡・相談の徹底と情報の共有化		コロナ禍の中であったが、確かな学力、健やかな体、豊かな心の育成に向けて、各担当・委員会の代表を中心に積極的に取組を進めている。また、各学年団との情報共有、学年団からの情報収集も適切に行われ、児童の実態をしっかりと把握して指導にあたっている。特に今年度は、校務支援システムの個人カルテによる情報共有が進んだ。各学年落ち着いて授業に取り組み、全国規模の学力検査結果においても、概ね全国平均水準以上の学力が身についている。	
	勤務時間の適正化		コロナ禍の中、全てにおいて協議をしないと前に進まない一年であった。加えて3月現在、2名の欠員が生じており、町教委から学習支援員等配置の支援があったが、厳しい学校運営が求められる一年でもあった。定時退勤日は例年以上に取組が進んでいない。学校行事等の精選、会議の効率的な実施等に取り組んでおり、教職員に適正化の意識はあるが、実際には勤務時間内での会議や業務の実施には難しいものがある。来年度は、コロナを契機に学校行事等のさらなる精選と効率化、校務の改善を図るとともに、短・中・長期それぞれのスパンで仕事をどうマネジメントしていくかを意識して業務に取り組み、定時退勤日の実施を進めたい。	
⑨ 施設・設備	学習・生活の場として適正な施設・設備等の管理・整備	A	3学期を迎えると共に、GIGAスクール構想に係る環境整備が矢継ぎ早に進められた。ネットワーク環境の整備、そしてタブレットの導入。来年度は、何においてもGIGAスクール構想の具現化、指導する教職員の指導力向上が求められることになる。校内研修を中心に、全職員の積極的な活用、情報交換により指導力の向上を図りたい。	一人一台のタブレットが支給されるようになったが、家庭へ持ち帰らせた時のネット環境は大丈夫だろうか。家庭によって差が出ないよう、行政の支援を得て、環境整備に取り組む必要がある。
	整理整頓された学びの場にふさわしい環境づくり		本年度は、プール、体育館をはじめ、校舎内外の修繕に多くの予算を費やした。施設自体の老朽化は否めないが、整備の優先順位を苦慮しながら、環境整備に努めたい。一方、空調設備が整ったことで、暑い時期においても学習効率をアップさせることへの期待が持てる。気持ちのよい職場、ミスのない職場の実現に向けて、教室ならびに職員室の整理整頓への意識高揚を図っていきたい。	
⑩ 家庭・地域との連携	家庭や地域への情報発信と情報収集	B	コロナ禍もあり、家庭への情報発信をこまめにすることに心がけた。ただ、状況の変化による度重なる変更のお知らせにより、家庭に混乱を招いたこともあったであろう。HPによる情報発信は、継続的に安定して行えた。加えて家庭連絡メールシステムのリニューアルにより、これまで以上の容量の連絡が可能になった。今後、ペーパー連絡、メール連絡をうまく組み合わせた情報発信を心がけたい。	「安心メール」等を通じて、タイムリーに情報発信していくことが大切である。防犯に関する情報については、できるだけ早く全校区に情報発信してほしい。アンケートや学校だより等も、メールでの配信・回収も考えても良いのではないかな。
	保護者や地域の人々と連携した教育活動の推進		家庭との連携においては、折々の教育活動に支援いただけている。元氣もりもり週間、家庭学習ががんばり週間も定着、効果を得られている。学力向上をめざす上で生活習慣の定着は不可欠であるので、今後も家庭への働きかけを続けていきたい。外部人材の支援を得た学習活動については参集いただくことへの不安感がぬぐえず、十分な機会を設けることができなかった。	

※その他

- ・給食当番着が古くなり、傷んでいる。少しずつ傷んだものから入れ替えをして欲しい。その際、ノーアイロンのものを取り入れていただければ、保護者の負担も減るのではないかな。
- ・130周年には、何かされる予定はあるか。あるのであれば準備を進めていく必要がある。子どもたちの心に残るようなことができれば、よいのだが。（120周年の際には、航空写真を撮っている。）
- ・播州柏の飼育については、学校で生き物を飼うことをどこの学校もしなくなっている。鶏合わせも中止になったこともある。鳥インフルエンザが発生した場合を考えると、飼育をしないこともいたしかたないと思う。